通信　i・ストリーム（法人版）VOL.8

「健康経営」の凄い会社への訪問

企業訪問レポート

文：小川 康成
ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾅｰ

今回訪問したＳ社さんは、創業 50 年以上で土木工事を主体とし、積極的に「働き方改革」に取り組んでいらっしゃる会社でした。約 80 名の社員さんが生き生きと働いており、中には 72 歳のユンボのオペレーターもおられました。社員さんの健康を大切にする取り組みを始めて５年、業績もその間に２倍になり、若い人が集まりにくいと言われている土木工事業の会社ですが、毎年高卒・大卒を 3～4 名程度コンスタントに採用していて、何より凄いのが学生から「こちらで働きたい」と申し出て入社となっているそうです。
社長さんは 50 代前半と若く、草野球やトライアスロンなどにも積極的にチャレンジされ、訪問するだけで会社全体に活気がみなぎっているのが良く伝わってきました。

＜「健康経営」を導入するきっかけ＞
年に数回、定期的に開催している社員さん向けの講習会に「野菜上級ソムリエ」資格を持つ先生を招き、その時のアンケートで社員さんの大半が成人男性の野菜接種推奨３５０グラムに対し 100 グラム～270 グラムしか野菜を摂取していない事、そして 63%がメタボ、またはその予備軍で有ることが判明し、危機感を持った社長が会社としてメタボ予防を始める事にしたのがきっかけでした。（社長のリーダーシップ）
また、その時点での社内喫煙率は 56.8%と当時の社会平均 33.2%の 2 倍弱。喫煙率の高さも将来の働き手不足を予測すると看過できない問題と判明しました。
＜取り組み＞
「6 か月で SMART！」
〇毎日体重を計測し記録する
〇できる部署から順番に、今までより野菜を一皿プラスする事をスタート
　食べるものを意識するようになった結果、体重が減った社員さんが 72%
「禁煙チャレンジ」
〇禁煙チャレンジを宣言した社員さんへ 10 万円を支給
　なお、もともと非喫煙者の方には、禁煙サポーターとして喫煙者の禁煙を
　サポートして貰う事により、同じく 10 万円を支給
　社内の喫煙率を張り出し、数字が減って行くのを全員で確認する事で、全社員参加型のイベントとして成功

結果喫煙率は２年で 56.8%→9.4%に激減

Insurance agency
i・ストリーム
〒489-0976　瀬戸市井戸金町 422-1
電話(0561) 83-8111　　FAX(0561) 83-8131
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://istream-web.jp
E-Mail　istream@istream-web.jp

会社としてのプラス効果

① 健康を通じてのコミュニケーション作りを通し、社内の風通しも良くなり組織が活性化した結果として、年々売り上げが上がっていった。

② 会社と、社員の家族との距離が縮まった。会社の菜園で栽培した野菜を持ち帰ったり、食べるものについての会話が増える事により、家族からの会社への理解も深まり、ある社員さんの奥さまは「あなた、こんな良い会社絶対にやめちゃ駄目よ」とおっしゃったとか（笑）

③ 企業としてのブランド力アップ。新聞に取り上げられたり、製材産業省などから表彰されるようになり、社員さんや学生さんに対する企業ブランド力が上がった。結果、社員採用に苦しむ会社が多い業界だが、定期的な採用に困らないし、社員さんも生き生きと働いている。

④ 取引先さんからの評価のアップ、社員さんの働き甲斐と家族の理解による定着率アップ。

↓

結果、売上高も５年間で約２倍！！

定年の方が健康で、働く事により収入を得られれば、定年以降働かない人と比べ生涯年収の差が出てきますし、定年の方が業務効率を落とさない形で働いて貰えれば、会社にとっても良い事です。健康で長く働く事は、会社にとっても社員さん自身にとってもメリットが非常に大きく、アメリカでは健康経営は会社としての投資となるが、リターンはその３倍になるというデータも有るそうです。

＜まとめ＞

最後に社長さんが「我々中小企業は、人、設備、資金、ブランドとも大企業には勝てません。しかし田舎に有る事、小さい事を逆にメリットと考え、中小企業だからこそできる会社作り・社内ブランド作りを戦略として強力なリーダーシップの下進めるべきだ」という言葉が印象的でした。

１部上場の大企業へ入社したから、生涯安泰という時代は過ぎたのかもしれません。
「適者生存」という言葉もありますが、状況や環境の変化に柔軟に対応できる企業こそが、これからは生き残るのかな？と考えさせられました。

弊社の保険業界、車の自動運転や衝突安全ブレーキの普及による自動車保険料の低下、カーシェアリングによる自動車保有台数の減少等、先行きは不透明かつ楽観視できない状況ではありますが、その中で社員と力と知恵を合わせ、環境に左右されずしっかりと伸びて行く企業になる事が必要なのではないかと思います。